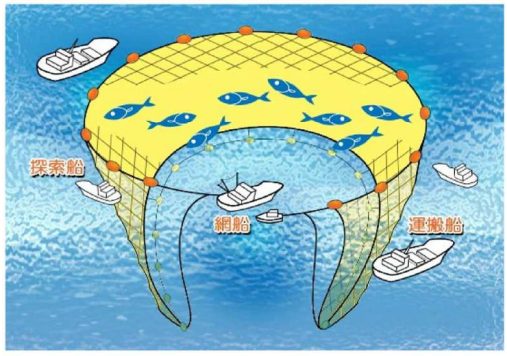
鳥取県の主な漁法
（沖合漁業）

大中型まき網漁業

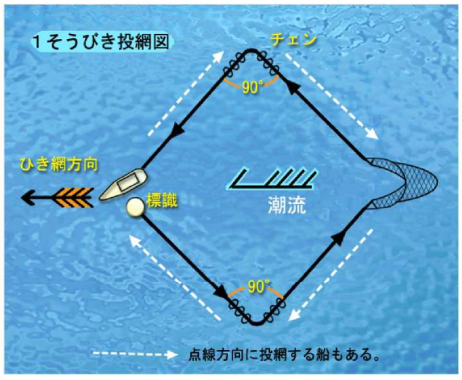
主にアジ・サバ・イワシ類等の多獲性浮魚類を漁獲する
大規模漁業で県内の水揚量の大部分を占める主要漁業である。



漁期	周年
経営体数	２（3船団）（平成21年）
経営体の根拠地	境港市
主な使用漁船	135トン、1838kw（網船）
乗り組み員数	1船団（5隻）50～55名 網船 20～25名 探索船（灯船）約5名／隻 運搬船約 約10名／隻
１航海日数	網船約3～5日、運搬船1,2日
漁法	1船団5隻 （網船1隻、運搬船2隻、探索船2隻）で操業し、長さ約2000m、高さ約100mもの大きな帯状の網で魚群を取り囲み、底の網を絞り込んで漁獲する
主な漁場	九州西沖から日本海沖合
主要水揚港	境漁港
主な対象魚種	マアジ、マサバ、マイワシ、ブリ クロマグロ等

沖合底びき網漁業（１そうびき）

深海に棲息するカレイ類等の底魚を漁獲する。
ズワイガニ等値段が高い魚種を漁獲対象とするため
水揚量に比べ水揚金額が高いのが特徴。



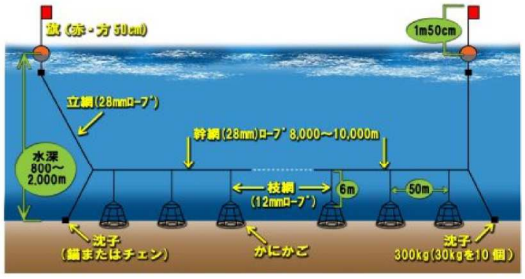
漁期	9月～翌年5月
経営体数	28（平成21年）
経営体の根拠地	岩美町、鳥取市
主な使用漁船	85トン、700kw（平均）
乗り組み員数	8～10名
１航海日数	3～6日
漁法	「かけまわし」漁法と言う独特の漁法。四角形を描くように船を走らせながら袋状の網を海に入れ、約60分程度主に水深150～500mの海底で網をひき廻して漁獲する。
主な漁場	隠岐諸島の東方、北方、西方海域
主要水揚港	網代漁港、鳥取港、境漁港
主な対象魚種	ズワイガニ、アカガレイ等カレイ類 ハタハタ、クロザコエビ等深海性エビ類 エッチュバイ等深海性巻貝。

鳥取県の主な漁法
（沖合漁業）

べにずわいかご網漁業

日本海の超深海からベニズワイガニのみを漁獲する漁法。資源管理のための種々な取り組みを実践している。

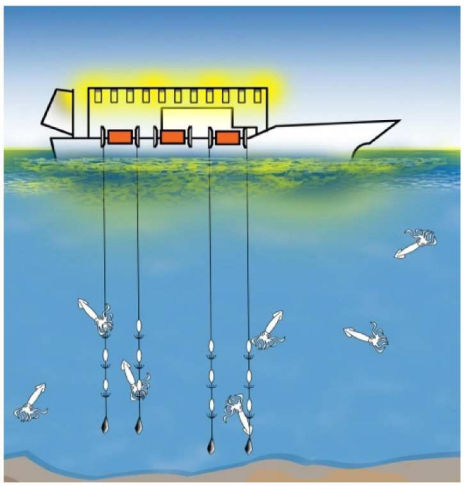
漁期	9月～翌年6月
経営体数	3（平成21年）
経営体の根拠地	境港市
主な使用漁船	134トン、588kw（平均）
乗り組み員数	10名前後
１航海日数	7～10日
漁法	直径約1.3m、高さ0.8mの篭に餌のサバ等を吊るし入れ、それをロープに縛って水深800m以深の深海底に沈めて、餌に集まってくるベニズワイガニを漁獲する。現在は1700mより深い海底での漁獲は自主的に規制している。
主な漁場	大和堆、隠岐堆、新隠岐堆
主要水揚港	境漁港
主な対象魚種	ベニズワイガニ



篭数は、1連に180個取り付ける。

篭には脱出口を設け、小型のカニを逃がしている。

イカ釣漁業（沿岸漁業も含む）

本県ごく沿岸域から日本海中央海域まで幅広く出漁しイカ類を漁獲。日本海沖のスルメイカ漁場が開発された1970年には、境漁港だけで約4万トンの水揚があった。

漁期	周年（県内船）、5月～翌年2月（県外船）
経営体数	112（2008年漁業センサス）
経営体の根拠地	境港市、岩美町、琴浦町等
主な使用漁船	3～10トン（沿岸） 19トン（沖合）
乗り組み員数	1名（沿岸）、3～4名（沖合）
１航海日数	1日（沿岸）、2～3日（沖合）
漁法	夜間に集魚灯でイカを集め、擬餌針で釣あげる。発電機を作動させ集魚灯に必要な電力を確保するため燃油消費量が他の漁業に比べ多いので、近年の燃油高騰により省エネ化が求められている。
主な漁場	鳥取県沿岸～沖合、大和堆等
主要水揚港	境漁港、赤碕港、鳥取港、網代漁港
主な対象魚種	スルメイカ、ケンサキイカ、ヤリイカ